



教育課程審議会審議のまとめ発表

基準改善四つのねらい

高等学校、盲学校、聾学校及び養護学校の教育課程の基準の改善について(審議のまとめ)が平成十年六月二十二日発表された。教育課程の基準の改善のねらいについては、次の四点を挙げている。

①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること
②自ら学び、自ら考える力を育成すること③ゆとりのある教育活動を開拓する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること④各学校が創意工夫を生かし特色ある学校づくりを進めることそして、新聞等に教育内

修学旅行新聞

発行所 財団法人全国修学旅行研究協会
全国修学旅行研究協会
前田 寛
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-17-1(NK第一ビル) ☎03(5259)0631
第1振替 00160-7-36337

財団法人全国修学旅行研究協会(全修協)は、日本の教育の振興に寄与することを目的とし、教育を熱愛し子供たちの幸福を希求する人々の支持を得て、修学旅行の改善向上を目指して、全国的規模で活動する文部省許可の教育研究財團である。

国内航空機利用と海外修学旅行の現状

主張
修学旅行の実態と完全学校週五日制への対応

広報委員 水野 清孝

生徒達の卒業期の文集を見ると、必ず修学旅行の思い出が書かれている。

そのように修学旅行は生徒達の心に何か大きな感激を与えるのである。

修学旅行指導要領の「旅行・学習指導要領」の位置付けは、修学旅行が時代的な変遷に関わりなく、本質は不変なものであることを意味している。

修学旅行の本質は変わらないが、形態は時代の変化で様変わりする。最近の修学旅行実態調査の結果をみると、ほとんどの学校で体験学習・班別活動を取り入れて、修学旅行の本質は変わらない。それが成功しない。それだけに、教師や生徒にかかる二回実施され、各学校とも

完全学校週五日制が月

練習

・班別活動を取り入れて、修学旅行の本質は変わらない。それが成功しない。それだけに、教師や生徒にかかる二回実施され、各学校とも

完全学校週五日制が月

練習

・班別活動を取り入れて、修学旅行の本

教育の窓

一 改善の基本的視点

今回の審議のまとめでは、完全学校週五日制の下で、各学校がよりのある教育活動を展開して、子どもたちに「生きる力」をはぐくることを重視している。

そのための視点としては、教課審の「中間まとめ」で示した内容をそのまま踏襲している。すなわち、○豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成、○多くの知識を一方的に教え込む教育を転換し、子どもたちが自ら学び自ら考える力を育成○ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本

の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実、○各校が創意工夫を生かしつけや善惡の判断などの繩に生きる日本人としての自年度内に告示予定の学習指導要領に強く反映されるものと考えよい。

二 教育内容等の改善

教課審の「中間まとめ」で示した内容をそのまま踏襲している。すなわち、○豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成、○多くの知識を一方的に教え込む教育を転換し、子どもたちが自ら学び自ら考える力を育成○ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の充実につながる。

三 教育の推進

他の改善点では、「道徳教育」に関して、基本的な施設などの実施、国際社会の食習慣の形成、生活習慣の予防、薬物乱用防止などの課題に適切に対応する色ある学校づくりを推進する四つの柱である。

これらの考え方は、次年度内に告示予定の学習指導要領に強く反映されるものと考えよい。

ランティア活動や自然体験

国歌の指導の充実を図ることを、「情報化への対応」に

関しては、中学校技術家庭教育の推進

各学校的創意工夫ある

活動を生かした学習の充

り返しての指導の徹底、ボ

ランティア活動や自然体験